



風ができるのを待ち遠しそうに見つめる子どもたち

America's First Resort NEWPORT CITY



ペリー提督墓前祭にて



歴代ニューポート市長が勢ぞろい



米国で最も古い観光地と言われるニューポート市



バイナー会長にも名入れの提灯を



楠山市長、ニューポートへ行く

7月16日～25日 ニューポート訪問体験記

楠山市長をはじめとして13名の下田市代表団が姉妹都市米国ニューポート市を訪問し、今年で30回目を迎えたニューポート黒船祭に参加するなど、様々な交流を深めてきました。この映画のようなワンシーンはニューポート黒船祭の晩餐会の様子です。

初めてのアメリカ
初めての姉妹都市
そしてゆるがない交流
下田市長 楠山 俊介

第30回ニューポート黒船祭に参加するにあたり、下田市訪問団はニューヨーク、ニューポート、ポストンと三者三様のまちなみ、そして人との交流をしまいにしました。中学生を含む参加者のほとんどが見る・聞く・行う・全て初めての、緊張と期待感溢れる旅の様子をご紹介します。

ホテルへ向かう車窓から、初めてのニューヨーク。行き交う人々の眼差しにまわりのエネルギーを感じると同時に、同行した中学生の活き活きとした目も印象的でした。滞在中、桜の木が屋根のように覆う、玉泉寺寄贈の石灯籠、その横に並ぶタウンセンター・ハリスの墓に祈りをささげ花を添えました。また、ハリスが創立したニューヨーク市立大学を訪問し、学長の歓迎を受け、「ニューヨーク市立大学」と名入りの提灯を贈りました。

妹都市ニューポート
中学生たちはこの日から緊張と期待のホームステイ、アメリカ生活が始まりました。私たちは歓迎夕食会に招待され、今年の下田黒船祭に参加いただいたウインスロップ市長、バイナー・ロードアイランド日米協会会長はじめ多くの方々の歓迎を受けました。また、言葉の壁、不自由さはありませんでしたが、過去何度も下田を訪れた方々と出会い、気持ちの通じ合う交流ができました。

このとき出されたクラムチャウダーは旅を通じて皆がベストと評価するほどの絶品で、初日から大変素晴らしい夜を過ごしました。翌日、緑豊かなトーロパークにて黒船記念式典が開催され、日本国外務大臣(代読)、米国連邦議会上院議員など、そうそうたる来賓の中、下田市長として祝辞と献花をさせていただきますました。ワークショップでは訪問団全員で、風作り、折り紙、羽子板づくり、習字などを披露しました。どれも好評で予定より早くの店じまいでした。

一つ目は、日米交流において下田市は重要な位置づけ、役割を持つており、それを担っていかねばなりません。その象徴が黒船祭の開催でありニューポート市との交流です。これらをまちの誇り、宝として育てていくための、取り組みが必要です。二つ目は、交流の素晴らしさ、おもてなしの大切さです。この訪問を通して多くの方々

夕方はマープルハウスと呼ばれる大邸宅を会場に、盛大な晩餐会が行われました。数々のあいさつの中で「下田」という言葉が一番多用され、市民として誇りにすべきことだと思ひ、日米交流の歴史において、下田が大きな役割を果たしていることを改めて感じました。ニューポート滞在中、ペリー提督墓前祭が開催され、中学生も含め訪問団全員で参加しました。夕方には滞在中お世話になった方々と最後のパーティーを楽しく過ごしました。最後に、バイナー会長の好きな「上を向いて歩こう」を皆で大合唱し、再会を誓っていました。

通りにゴミ一つない美しさで、格式、落ち着いたある街に、皆、感激をしました。夜は、ポストン総領事公館の晩餐会に招待いただきました。武藤総領事に、姉妹都市はいつもある中、ニューポートと下田との関係は最良の一つであると褒めていただきました。

★★★ 皆都市ポストン

★★★ 訪問を通して得た 3つの思い

今回、3都市を訪問し、それぞれの良し悪しを感じました。その上で、日本、下田の良さを改めて感じました。そして、下田のまちの目指す姿の一つが見えてきました。ペリー提督が褒め称えた「美しいまち」です。美しさは多種多様ですが、全てにおいて「美しさ」を求めるべきだと思います。